平成23年4月1日発行　第42巻 第4号　毎月1回1日発行　昭和46年1月27日第3種郵便物認可
ISSN 0385-2229

月刊 地域保健

4
2011

●座談会

地域ネットワークで児童虐待を防ぐ

●FRONT RUNNER

西予市野村総合支所
保健福祉課課長
滝上範子さん

●PEOPLE

日本学術振興会特別研究員
澁谷智子さん

FRONT RUNNER

滝上範子さん

西予市野村総合支所保健福祉課課長

自転車から光ファイバーへ

道具が変わっても変わらない保健師の働きとは

取材・文　編集部　　photographs：Sei Kamiyasu

今月のFRONT RUNNERにはICT*を活用した健康管理事業に取り組む滝上範子さんにご登場いただく。市民を対象にした「健康大学」の取材もあわせ、南国愛媛の西予市に滝上さんを訪ねた。

●

松山自動車道を西予宇和インターで降り、宇和川沿いの道を上流方面に20分ほど行くと、滝上さんの勤務する西予市野村総合支所に着く。ここはかつて「ミルクとシルクの町」(乳牛と養蚕)として知られた旧野村町の中心部にあたる。2004年、旧野村町は明浜(あけはま)・宇和・城川・三瓶(みかめ)との5町合併により西予市となった(人口4万3078人、高齢化率約36%、11年2月末現在)が、過疎化が進み、いくつもの限界集落を抱えている。

午前9時、朝靄に包まれた街は人影もまばらで静けさを保っていた。はじめに、「健康大学」の取材で公民館に向かう。途中、スキーのポールを手に歩く二人組の女性を目にした。あたりに雪がないのに不思議な光景。「あれは一体、何だろう」。強烈な印象が残った。

公民館は西予市野村総合支所の隣にあった。2階のホールでは、既に健康大学の参加者たちが6つのテーブルに分かれ席に着いている。その数、約40人。年齢は50代から70代だろうか。人の少ない街の風景とは対照的にここはおしゃべりで賑わっている。今日は秋口から始まった健康大学の最終回。フードモデルを使った栄養講座がメーンテーマということで、テーブルの上には食品サンプルが所狭しと並べられている。

滝上さんがマイクを持って挨拶に立った。

「こんにちは。みなさんは既にノルディックウォークを実践されていると思います。いま、野村ダムの周辺など

野村総合支所へはエメラルドグリーンの宇和川を眺めながら四国の奥地に向かう

＊Information and Communication Technology　情報通信技術

座談会

地域ネットワークで児童虐待を防ぐ

初期対応を中心として

平成16年度の児童福祉法の改正により、市町村には虐待防止の中核機関として要保護児童対策地域協議会が設置され、関係機関が情報を共有する仕組みがつくられた。しかし通報遅れなどの事態は依然として発生し、児童虐待数も増え続けている。保健部門と福祉部門のアセスメントの違い、実務者会議の目的の明確化など、仕組みがうまく機能するには解決すべき課題がいくつもあるようだ。

今月号では、児童相談所、県型保健所、市町村の母子部門、市町村の福祉部門からそれぞれご出席いただき、初期対応を中心として地域のネットワークで児童虐待を防止するための方策について話し合っていただいた。

◎岡山県備中保健所
高橋千枝さん

《司会》
◎厚生労働省雇用均等・児童家庭局
川崎千恵さん

◎焼津市
吉田和子さん

◎富士河口湖町
梶原眞由美さん

◎島根県中央児童相談所
榊原文さん

photographs：Sei Kamiyasu

ひよこ保健師 season 5

手術室から地域へ

保健師魂を継承し「頼られる保健師」を目指す

古屋美穂（ふるやみほ）さん
●神奈川県横須賀市こども育成部こども健康課（西健康福祉センター）

▲勤務する西健康福祉センターの中庭にて。ここは横須賀西地区の行政センターとコミュニティセンターも併設されている

◎取材・文・写真　西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）

▲このころは獣医さんに憧れていた

「野良猫がケガをしている姿を見ると、治してあげたい、動物の役に立ちたいと思い、高校3年生まで本気で獣医を目指していました。動物じゃなくて、人間の役に立ちたいと思ったのはもっと後からなんです」

と、話す古屋美穂さんは昨年横須賀市に正規採用となった29歳。大学受験では獣医学部を目指し、実際に何校も受験している。どこかに受かっていれば今、ここに登場することもなかったはずだ。つまり、受験はすべて失敗してしまい浪人生活に入ってしまった。

「翌年も獣医を目指すつもりで予備校に入りました。勉強をしながら、獣医とはどのような仕事なのかも改めて調べてみたのです。そうしたら、獣医は動物を助けるだけじゃなく、安楽死など殺すことも仕事になっている――動物が幸せになることよりも人間の都合が優先されることにも気付いてしまいました」

自分はこのまま獣医を目指すべきなのか。悩んだ古屋さんの頭に浮かんだのは「だったら人間のためになる仕事を目指すべきじゃないか」との思いだった。そこで浮かんだのが看護師という仕事だ。

「実は兄が理学療法士でして、頭の片隅に人間相手の医療職への興味も多少はありました。では自分はその中の何になりたいのかと考えてみたら、看護師が浮かんだのです。なぜかというと直接患者さんの近くにいて、治療はもちろん、精神面でもサポートできる立場と思ったからです」

かといって100％看護師に気持ちが動いたわけではない。まだまだ迷いはあり、次の受験は獣医と看護師の両方でチャレンジ。最終的に看護師への興味が強くなり、進学先として選んだのは東海大学健康科学部看護学科だった。

周囲との温度差に戸惑う

入学して感じたことは、周囲に「昔から看護師を目指していた」人が多かったことだ。それに対して自分はつい最近目指したので意識の違いに戸惑った。さらに1年生では「看護論」的な勉強ばかりで、早く現場を体験したかった古屋さんにはどうもピンとこない。自分はここに居ていいのだろうかと迷い、将来看護師として働く姿はまったく想像つかなかったという。